

兵庫県こころのケアセンター 平成27年度実施分に係る  
外部評価委員会 事業評価

評価対象事業	評価	所 見
研修事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の開催回数、参加人数ともに年度目標を達成しているとともに5点満点中4.3点という受講者からも高い評価を得ており、量的な側面のみならず質的な側面でも十分に満たした事業が実施されている。</li> <li>・ 一方で、受講率は改善したものの、受講希望者(申込者)のうち8.5%（前年度から4.5ポイント改善）は受講できなかったという点については、改善の余地がある。</li> <li>・ より専門的な研修内容の「特別研修」は、当センターでこそ実施できる研修であり、今後も継続して実施されることが期待される。</li> </ul>
情報の収集 発信・普及 啓発事業	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「こころのケアシンポジウム」は適切なテーマと講師選択で、230名が参加し、アンケートにおいても高い評価を得ている。</li> <li>・ ホームページのアクセス件数は、年間目標の倍以上である73,407件のアクセスを記録しており、「サイコロジカルリカバリースキル教育DVD」の動画、「ひょうごDPAT活動マニュアル」などの情報提供により、当センターの果たす役割が明確になり、情報の収集や普及発信につながっている。</li> <li>・ エントランスホールの展示スペースの充実とともに、時宜をとらえたテーマによるシンポジウムの開催などを今後も継続して、更なる情報の発信や広報の拡充を期待したい。</li> </ul>
連携・交流 事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東日本大震災をはじめ国内外の地震等の災害に際して、支援チームの派遣やコンサルテーション等の活動を精力的かつ継続的に行い、当センターの経験と知識が支援関係機関への助言という形で成果をあげており、高く評価できる。</li> <li>・ 「ひょうごDPAT」の活動では、研修会の実施、体制整備支援等の成果を上げた。</li> <li>・ 今後は、狭義の連携・交流ということを超えて、より積極的に各種ネットワークにおいてリーダーシップを発揮していくことが望まれる。</li> </ul>
相談事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談件数は、横ばいで落ち着いてきているが、専門的相談窓口として、トラウマ・PTSDに特化した支援を行っており、専門性と地域における役割が十分に発揮されている。</li> <li>・ 診療所との連携や土曜日開館等、利用者の立場に立った工夫が行われ、きめ細かな対応ができていると評価できる。</li> </ul>

評価対象事業	評価	所 見
附属診療所の運営	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診件数は前年度比でわずかに減少したものの、初回受診者数は増加しており、また医療機関を含む他の専門機関からの紹介患者が多く、本センターが専門性を認知されまた発揮していることがうかがわれる。</li> <li>阪神・淡路大震災後、21年が経過し、近年、同震災被害者が減りつつあるなか、DVや虐待等PTSD患者が増えてきているなど、依然トラウマ・PTSDの専門治療機関として担うべき役割は大きい。</li> <li>被災地支援や研修会の依頼が増加する中での診療時間の確保、専門的治療の更なる充実の必要性、職員の加重負担の軽減などを図るため、人員や予算面での拡充を図ることが望ましいと思われる。</li> </ul>
ヒューマンケアアカレッジ事業（音楽療法士養成講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽療法専門講座修了者（兵庫県音楽療法士補）数についての年度計画は達成されている。</li> <li>音楽療法の導入状況を踏まえ、県内の音楽療法適用の現況を把握しつつ、基礎、専門、現任者それぞれの力量形成、向上につながるよう、講座や事業内容が設定されることを期待する。</li> </ul>
ヒューマンケアアカレッジ事業（実践普及講座）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3講座の受講者合計数は、125名で150名の目標を達成することができなかった。</li> <li>受講者の満足度が高く、有益な講座であったと思われるが、講座の内容について、受講者のニーズの的確な把握に努め、社会的な有用性などに常に留意して見直しを行うとともに、県民への広報手段についても再考する必要があると思われる。</li> </ul>
センター業務運営の効率化	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療収入が、前年度、前々年度を下回ったが、経費節減や自主財源の確保の努力により、当センター全体で黒字化を確保するなど、「安定した診療収入等の確保に努めるとともに、経費節減を図る。」という中期計画の目標の達成レベルは維持している。</li> <li>業績評価システムを導入し外部評価委員会での意見を踏まえて所要の改善を図り、計画通り実施しており全体として目標を達成できたと評価できる。</li> </ul>
研究調査に係る総合的な評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期研究では、災害支援関連1題、子どもの心的外傷性悲嘆関連1題、職場のメンタルヘルスに関する研究1題で、バランスよくテーマ選択が行えている。長期研究でも、3年計画の3年目となり、自然災害関連のテーマが2題と、子どものトラウマ関連が1題、災害救援組織のメンタルヘルスに関するものが1題で4テーマとも、順調に進捗している。</li> <li>他の研究機関がアプローチしにくい対象を比較的大規模サンプルで取り上げ、また、長期的取り組みを実践に活かすことをテーマにするなど、本センターならではの研究が行われており、高く評価できる。</li> <li>現在、事業評価の対象外としている科学研究費助成事業等の自主的研究を評価対象とすることについて、検討することを要請する。</li> </ul>

(評価基準)

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。